

## 1 目的

本校野菜科には、毎年数名の離島出身者が入学している。近年の入学生は、TPPを意識した学生が多く、サトウキビやパレイシヨ、サツマイモ等に代わる新品目の導入に関するプロジェクト課題を設定している。

そこで、上記のニーズに対応するため、県内の各離島で主に花き生産に利用されている簡易平張り施設を学生自身に建設させ、平張り施設による果菜類やマメ類の栽培について検討した。

## 2 実施状況

### (1) 平張り施設の建設

大島地区で建設されている平張り施設を参考に、昨年7月から学生が中心となって平張り施設を建設した。建設日数は雨天も含め約3週間であり、250㎡(縦10m×横25m、高さ2m50cm)の施設を完成させた。また台風の影響を少しでも軽減するために施設の西側と北側に防風用ソルゴーを植栽した。



建設した平張り施設周辺にソルゴー植栽

### (2) 施設内での栽培試験

キュウリとナスは6月下旬は種、7月下旬に定植を行い、キュウリは8月下旬、ナスは9月中旬から収穫を行った。強風の被害を軽減でき、防虫ネットが適度な遮光となり、当初は順調に収穫できたが、徐々に害虫の被害が多くなり、特にアブラムシとアザミウマ類の被害が大きかった。

インゲンには8月下旬から9月上旬に3回は種し、平張り施設と露地での比較試験を実施した。収量は露地栽培が多収量であったが、A品率は平張りの方が高かった。平張り施設内はハモグリバエの被害が大きく、露地栽培ではその被害が小さかった。この原因として、天敵が施設内に侵入できないことが考えられる。



施設内でのキュウリとナスの栽培

### (3) 台風等の強風被害の検討

台風時の被害状況を検討するために、キュウリ、ナス、インゲンの栽培に取り組んだ。25年は台風の本土上陸はなかったため、その効果を確認することはできなかった。台風接近時の風速20m/s程度では、天井のネットを固定したスプリングが外れることがあったが、簡単な修繕で対応することができた。その他には施設、植物体共に大きな被害を受けることはなかった。



インゲンの平張りと露地での比較試験

## 3 今後の課題

○台風時の被害状況

○平張り施設における品目・作型の検討